余市町

1331　畠山　展大

1.　余市町概要

1.1　概要

余市町は、北海道の西部・積丹半島の東の付け根に位置する、人口約 22,000 人の町であり、町の北側は日本海に面し、他の三方はゆるやかな丘陵地に囲まれている。

地名は余市川を指すアイヌ語地名「イオチ i-ot-i（それぞれマムシ・群棲する・もの（川流域））」を起源としている。

図 1　町章

出典：余市町 HP

1.2　余市町の町章・カントリーサイン

北斗星は町の発展を示し、中央の丸の中の「余市」は団結と親和を表している。

カントリーサインには、余市町の観光名所であるローソク岩とニッカウヰスキー北海道余市原酒工場が描かれている。

図 2　カントリーサイン

出典：北の道ナビ HP

1.3　余市町の歴史

町内にはフゴッペ洞窟をはじめとする縄文時代から続縄文時代の遺跡が多く、古くからアイヌの人々が定住する地だったものと推測される。江戸時代初期に松前藩の商場知行制・場所請負制が敷かれると、1635 年に当時伊豆守で後に初代松前藩主となる松前慶広が、余市川の右岸を上ヨイチ場所として松前左膳に、左岸を下ヨイチ場所として松前八兵衛に与えた。和人によるアイヌ交易の拠点としてこの二つが置かれたことから、近世・現代において道内有数の交易場所・ニシンの千石場所として栄えた。しかし 1954 年を最後にニシンの回遊が途絶えており、以後ニシンの群来は確認されていない。現在はひらめやかれい、たら等様々な種類の魚が獲れる。またこのことに関して、余市町はソーラン節発祥の地としても知られている。

1869 年に開拓使余市詰役員が派遣され、正式な余市町の開基となる。その後 1871 年に旧会津藩士が余市町に入植。1900 年に郡内 11 の町村を合併して余市町となる。

1875 年に開拓使が農家にアメリカから取り寄せた林檎等の苗木を農家に配布したことから農業開拓が始まり、1879 年には余市リンゴを日本で初めて民間栽培で結実させる。以後数多くの果物・野菜が栽培、収穫されている。

また、日本人初の宇宙飛行士毛利衛氏や長野冬季オリンピックのスキージャンプで金メダルを獲得した船木和喜といった各界の偉人を輩出するなど、長く・多方面にわたった歴史をもつ。

2.　余市町の地理・気候

2.1　余市町の位置

余市町の行政面積は 140.6 ㎢で、このうち、山林面積が 93.5 ㎢（約 66%）、畑地が 21.13 ㎢ （約 15%）などとなっており、豊かな緑に囲まれた平坦地に広がる宅地 4.83 ㎢に市街地が形成されている。

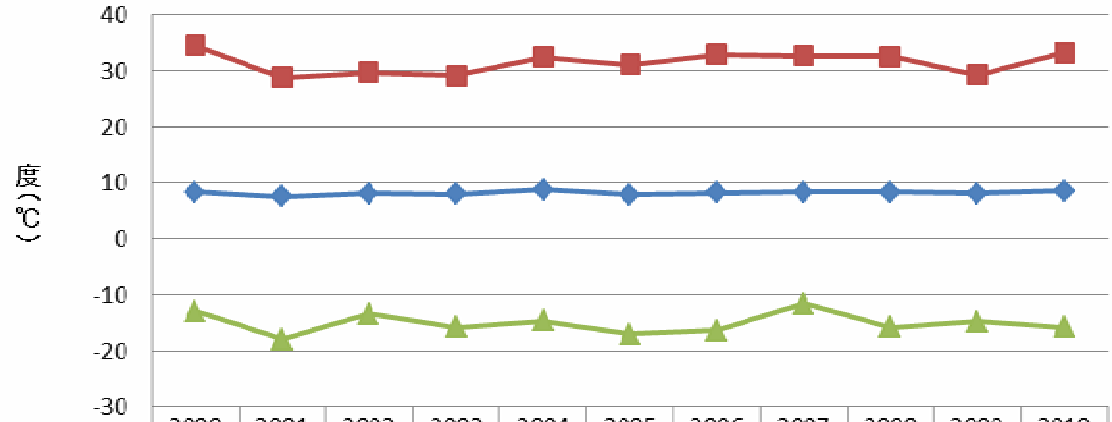
市街地から隣の小樽市までは車で約 30 分、札幌市までは 1 時間少々、また積丹半島と倶知安方面への国道の分岐点に当たる交通の要衝に位置している。

図 3　余市町の位置

出典：WikipediaHP(一部加筆)

2.2　余市町の気温

グラフ 1　日平均気温・最高気温・最低気温

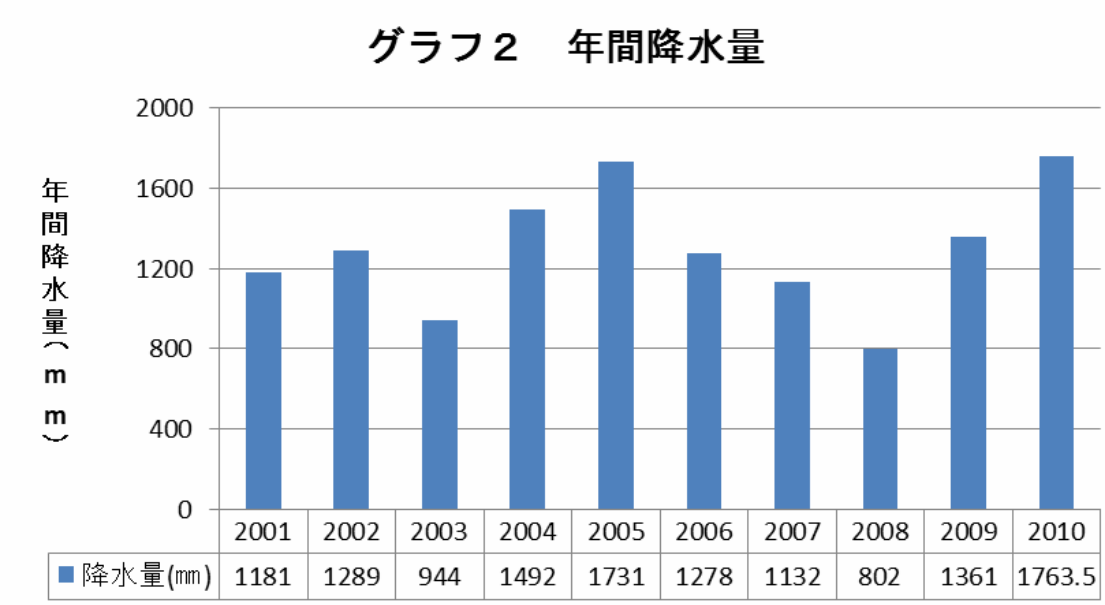


	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
日平均	8.3	7.5	8.1	8	8.7	7.8	8.2	8.3	8.3	8.1	8.5
最高	34.6	28.9	29.8	29.2	32.5	31.2	33	32.7	32.6	29.3	33.3
最低	-12.8	-17.9	-13.3	-15.7	-14.6	-16.9	-16.2	-11.5	-15.7	-14.7	-15.7

出典：気象庁 HP より筆者作成

余市町は、北海道の中でも比較的温暖な気候に恵まれた町として知られている。日平均気温は同じ後志管内の市町村と比べても約 1～2℃高い。日平均気温、最高気温、最低気温は各年で多少差はあるものの、ほとんど変わっていない。

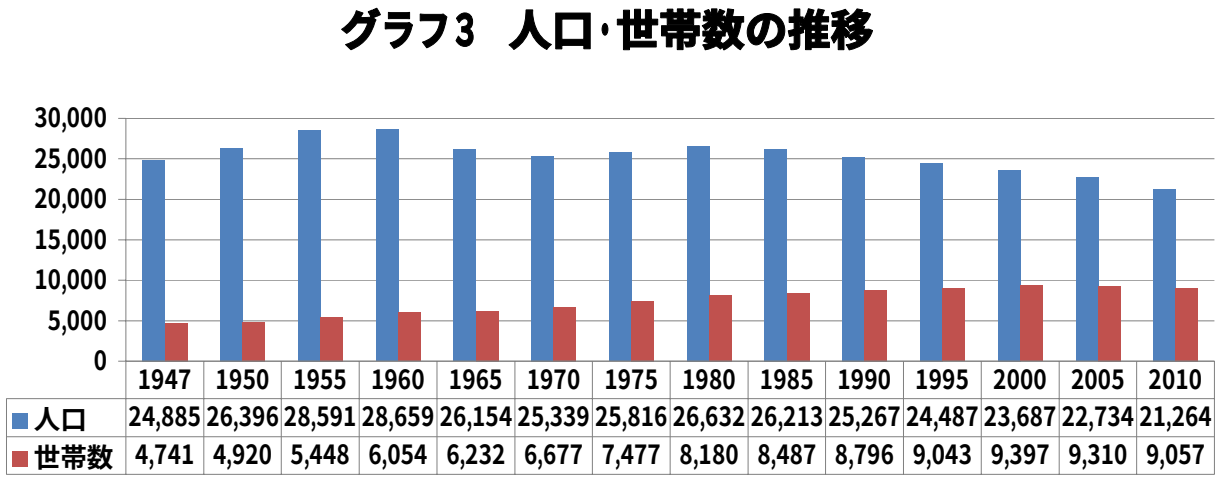
2.3　余市町の降水量



出典：気象庁 HP より筆者作成

余市町の降水量は大体年間 1000～1500 ㎜となっている。ところが下のグラフを見たら分かる通り、2005 年と 2010 年の降水量は他の年の値を大きく超えている。2005 年には台風 14 号があり、2010 年にはゲリラ豪雨があったためこのような値となっている

3．　余市町の人口



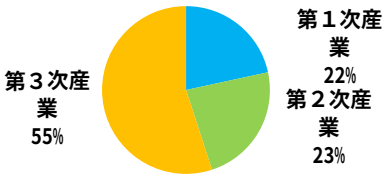
出典：総務省統計局「国勢調査」より筆者作成

余市町の人口は 1960 年の 28,659 人がピークで、そこからは全体的に見ると減少傾向にあり、2010 年現在は 21264 人となっている。それに対して世帯数は上昇傾向にあるため、一世帯数あたりの家族人口は昔に比べ減っていることが分かり、高齢者の単身化や核家族世帯の増加が余市町でも進んでいることが分かる。

4.　余市町の産業

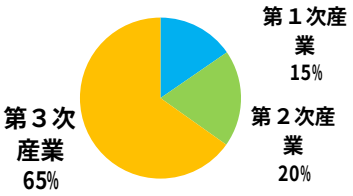
4.1　産業別人口

グラフ4　産業別人口(1985)



出典：総務省統計局 HP より筆者作成

グラフ5　産業別人口(2010)

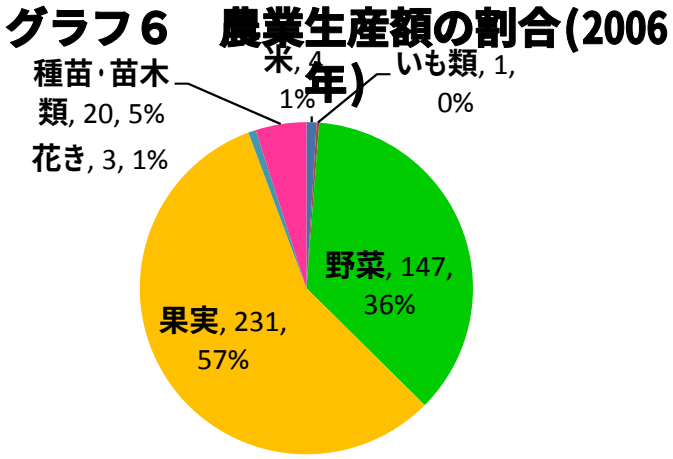


出典：総務省統計局 HP より筆者作成

上のグラフは 1985 年と 2010 年の産業別人口の割合である。比較してみると、余市町は以前から第 3 次産業が中心となっていることがわかる。1985 年の産業別人口の実数は、第 1 次産業が 2389 人、第 2 次産業が 2588 人、第 3 次産業が 6083 人となっている。また 2010 年の産業別人口の実数は、第 1 次産業が 1568 人、第 2 次産業が 1990 人、第 3 次産業が 6677 人となっている。両年の産業別人口の合計は 1985 年が 11060 人、2010 年が 10235 人となっており、労働人口そのものが減少していることが見て取れる。ただし、割合こそ少ないが昔から農業や漁業を中心としていることを忘れてはならない（農業と漁業については後述）。

4. 2　農業

グラフ６　農業生産額の割合(2006年)



出典：農林水産省 HP より筆者作成(単位：千万円)

前述した通り、農業は余市町において中心産業の一つである。それは余市町の温暖な気候と豊かな土地があるからである。上のグラフを見たら分かる通り、余市町の農業生産額の割合は野菜と果実が 90%以上を占めている。金額も野菜が 14 億 7 千万円、果実が 23 億 1 千万円となっており、余市町の農業生産額の合計が 40 億 6 千万円(畜産は除く)であることから考えると、いかに野菜と果実が占める割合が高いかが分かる。

その内訳を表 1 と表 2 から見てみる。まずは余市町の農業生産額において半数以上を占める果実について見てみる。余市町の果樹地は北海道の果樹地全体の約 35%を占めている。そんな道内屈指の果実生産地である余市町で収穫されている主な果実は林檎と葡萄である。林檎は「つがる」や「レッドゴールド」といった有名な品種を中心に樹面積 261ha、収穫量 2910t となっている。葡萄は「デラウェア」や「キャンベル・アーリー」など数多くの品種を中心に樹面積 461ha、収穫量 4330t となっており、葡萄を原料としたワインづくりも盛んである。また、データがなかったため表に記載していないが、「佐藤錦」や「水門」を中心としたさくらんぼ、余市町生まれの「千両梨」や「バートレット」を中心とした梨、現在栽培研究が進んでいるプルーンの生産も盛んである。

次に野菜だが、余市町で主に収穫されている野菜は大根・馬鈴薯(じゃがいも)・きゅうり・トマトである。特にトマトは作付面積が 50ha、収穫量が 3204t、きゅうりは作付面積が 11ha、収穫量が 630t となっており、道内屈指の収穫量を誇っている。

表 1　果樹の樹面積・収穫量

	樹面積(ha)	収穫量(t)
林檎	261	2910
葡萄	461	4330

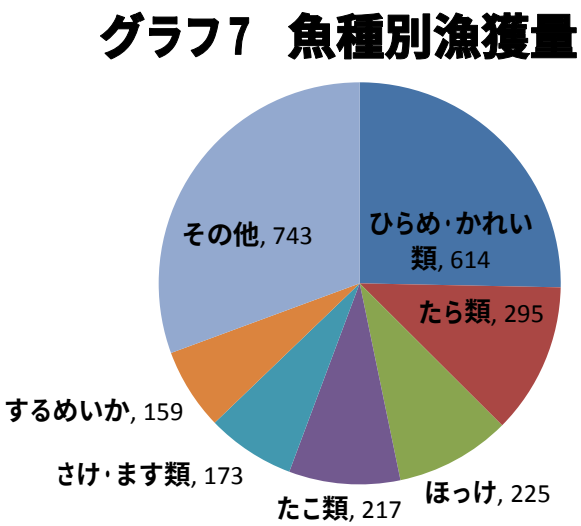
出典：農林水産省 HP より筆者作成

表 2　野菜の作付面積・収穫量

	作付面積(ha)	収穫量(t)
大根	3	81
馬鈴薯	5	114
白菜	1	33
キャベツ	1	13
ほうれん草	0	4
葱	1	12
きゅうり	11	630
トマト	50	3204

出典：農林水産省 HP より筆者作成

4.3　漁業



出典：農林水産省 HP より筆者作成(単位：t)

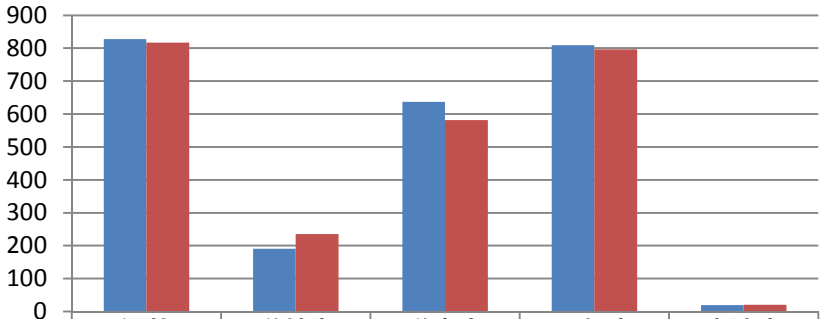
1 章で述べた通り、余市町は古くからニシン漁で栄えた街だったが 1950 年代前半を境に

廃れてしまった。現在余市町で主に獲れる海産物は 1.3 で述べたひらめ・かれい類、たら類のほかほっけ、たこ類、さけ・ます類等である。また、町内を流れる余市川には鮎が生息し、毎年夏頃には鮎釣りが行われる。

5.　余市町の観光

5.1　観光入込客数

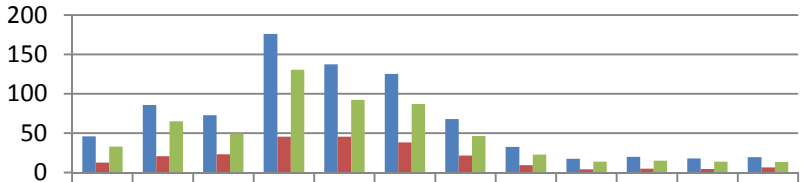
グラフ8　観光入込客数 (比較)



	総数	道外客	道内客	日帰客	宿泊客
2009年	828	191	637	808.7	19.3
2010年	817	235.8	581.2	796.1	20.9

出典：北海道後志総合振興局 HP より筆者作成(単位：千人)

グラフ9　観光入込客数(平成22年度)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入込客総数	45.7	85.5	72.6	176	137	125	67.7	32.3	17.6	19.8	18	19.6
道外客	12.7	20.6	23.1	45.5	45.3	38.1	21.6	9.5	3.9	4.8	4.3	6.4
道内客	33	64.9	49.5	130	92.1	87	46.1	22.8	13.7	15	13.7	13.2

出典：北海道後志総合振興局 HP より筆者作成(単位：千人)

余市町を訪れる観光客は、グラフ 8 の通り道内客、日帰り客が多い。しかし他の後志

管内の町と比べると、比較的道外客が多くなっている。これは、上記の通り毛利衛さんや船木和喜さんら数多くの著名人が余市町出身であること、ソーラン節発祥の地として北海ソーラン祭りが開催されていることによるものだと推測出来る。グラフ 9 で 7 月・8 月の観光入込客数の総数・道外客・道内客が他の月に比べて多くなっているのは、北海ソーラン祭りが 7 月に開催されること、お盆の帰省があること、といったことが理由として推測出来る。

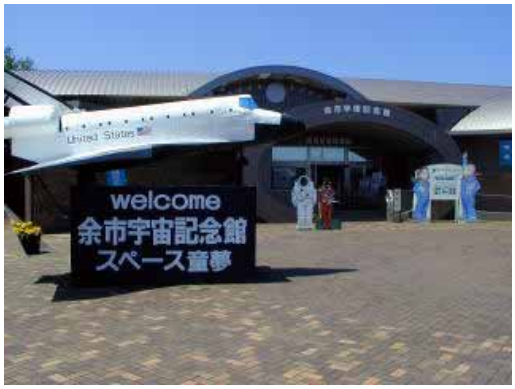
5.2 観光施設

5.2.1 余市宇宙記念館

余市宇宙記念館「スペース童夢」は余市町の道の駅「スペース・アップルよいち」の施設内にある。余市町出身の毛利衛さんが 1992 年に日本人科学者初の NASA 宇宙飛行士として宇宙に挑んだのを記念して建てられた。

毛利さんが実際に行った宇宙実験や毛利さんから子どもたちへ贈られたメッセージ、更には、宇宙の神秘や宇宙開発の歴史、太陽や月をはじめとした天文等を学ぶことができる学習施設である。

図 4　宇宙記念館



出典：余市町 HP

5.2.2 ニッカウヰスキー北海道原酒工場

ニッカウヰスキーの創業者・竹鶴政孝氏が 1934 年、自分の理想とするウイスキーをつくるため、林檎や葡萄の産地であり、空気が澄んでいて、そのうえピート地帯でもある余市町を選び、建てた工場。2004 年に北海道遺産に登録された。

工場内にあるウイスキー博物館ではニッカウヰスキーの創業から現在までの商品や、竹鶴氏とリタ婦人の軌跡を紹介している。

図 5　ウイスキー博物館

出典：余市町 HP

5.2.3 ローソク岩

ニセコ積丹小樽国定公園内の数ある岩の中でもえびす・大黒岩とローソク岩は万人を感銘させるものとして有名で、前述の通りニッカウヰスキー北海道原酒工場とともに余市町のカントリーサインに描かれている。

図 6　ローソク岩

出典：余市町 HP

5.2.4　円山公園

円山公園は大正時代から花見の名所として親しまれてきた。現在、ガラス屋根のピラミッド型の温室施設を中心に遊具広場や多目的広場が整備され、四季を通じてさまざまなレクレーションを楽しむことができる。温室内には熱帯の樹木をはじめたくさんの草花が咲き乱れている。また、展望台からは雄大な日本海を背景に余市町全景が見渡せる。

図 7　円山公園

出典：余市町 HP

5.2.5　旧下ヨイチ運上家

運上家とは場所請負人によって設置された施設で、和人とアイヌ人との交易の場所であった。現存する運上家は旧下ヨイチ運上家一箇所のみである。松前藩の蝦夷地支配の遺構として、昭和 46 年（1971 年）、文化財保護法によって建物が重要文化財に指定され、一帯の敷地は昭和 48 年（1973 年）、国の史跡に指定された。

図 8　旧下ヨイチ運上家

出典：しりべし i ネット HP

5.2.6　よいち水産博物館

ニシン漁で栄えた余市町の歴史資料を江戸時代に交易で活躍した弁財船や当時の生活用品を中心に展示している。考古資料を中心とした展示の「歴史民俗資料館」も併設している。

図 9　よいち水産博物館

出典：北海道文化資源データベース HP

5.2.7　旧余市福原漁場

余市町浜中町に幕末から定住し、ニシン漁を行っていた福原家が所有していた建物群が福原漁場である。広い敷地内を散策するとニシン漁に使われていた建物がどのように配置されていたかがつかめる。その中の主屋である番屋は出稼ぎの漁夫の宿泊空間であり、道内にある文化財としての番屋の中でも有数の広さを誇っている。

図 10　旧余市福原漁場

出典：余市町 HP

〈参照ホームページ〉

余市町 HP：http://www.town.yoichi.hokkaido.jp/

北の道ナビ HP：http://northern-road.jp/navi/

WikipediaHP：http://ja.wikipedia.org/wiki/

気象庁 HP：http://www.jma.go.jp/jma/index.html

総務省統計局 HP：http://www.stat.go.jp/

農林水産省 HP：http://www.maff.go.jp/

北海道後志総合振興局 HP：http://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp/

しりべし i ネット HP：http://www.shiribeshi-i.net/

北海道文化資源データベース HP：

http://www.pref.hokkaido.jp/kseikatu/ks-bsbsk/bunkashigen/index.html